

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	西木観光協会補助金					
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係		作成者	水平裕見子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	観光客受入態勢の整備				29
予 算 費 目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費		
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	西木地区市民のため、観光の振興を図る。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	観光誘客により観光客を増加させ、観光産業と地域の発展を図る。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	観光キャラバン、パンフレット作成等。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	会員数	目標	人	50	50	50	
			実績	人	43	41	41	
			達成度	%	86.0%	82.0%	82.0%	
	成果指標	西木地区観光客数	目標	人	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
			実績	人	892,761	830,465	736,118	
			達成度	%	89.3%	83.0%	73.6%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				440	450	400	
	人 件 費 (B)		—		236	242	238	
	職 員 数		—		0.03	0.03	0.03	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				676	692	638	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				676	692	638
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		15,721	16,878	15,561
		市民1人当たりのコスト(円)		—		21	22	21

【事務事業の今までの成果】

観光宣伝効果により、西木地区がグリーンツーリズムの先進地であることや農村風景が素晴らしいことが認知されてきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	国で観光庁の設置やビジットジャパンの運動の展開等観光産業を推進している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	会員数、事業規模等が低いため、協会の存在、在り方が問われている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 3	A 現状のまま継続（実施）	仙北市の他の観光協会と比較し、規模が小さいため、観光協会の合併や連携を進める必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

観光協会の合併を模索しながら、会員数の増加を図ることにより、自主財源を確保するなど、規模は小さいながらも西木地区特有の施策を進める必要がある。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	観光に携わる様々な主体が適正な役割分担のもと、一体的に観光振興に取り組むことが重要であり、3つの観光協会が連携（合併）を推進し、共通認識をもって事業に取り組む必要があります。補助金のあり方についても、検討が必要と考えます。

一次評価診断図

